

喫煙と薬

喫煙は、健康問題として避けては通れない事項の一つですね。たばこの煙の中には、分かっているだけでも4000種類以上の化学物質が含まれています。有害物質として、一酸化炭素や、がんの原因となるタールなどがあります。このため、たばこを吸っている人は、肺がんなどになりやすく、心臓や肺の病気にかかりやすいことはよく知られていることです。

さらに、喫煙により体に取り込まれた様々な成分が、薬にも影響を与えることが明らかになっています。ビタミンCが大量に消費されるのがよい例です。たばこ1本でレモン1個分のビタミンCを消費してしまうという報告もあります。



スウェーデンのたばこ警告文の一文に「喫煙者の胃かいようは治りにくく、再発しやすい」とあります。どんなかいようの薬を飲んでいても、たばこに含まれるニコチンは、胃酸の分泌を促進するので薬の効果が減ってしまい、悪化・再発する可能性があります。実際、再発率は非喫煙者に比べ、喫煙者の方が明らかに多いのです。

また、喫煙は心臓に直接的に有害作用を与え、狭心症の薬の効果を妨げ、たばこを止めることにより狭心症の発作の回数が減少するとのことです。あるいは、テオフィリンという呼吸器系の薬では、喫煙によりこの薬が体から早くなってしまうので、効き目の持続する時間が短くなる場合があります。このように、喫煙は薬の効果に色々な影響を与えることが知られてきました。

たばこの煙は、吸っている人だけではなく、周りの人々にも影響を及ぼします。例えば、心臓の病気やぜんそくにかかっている人の病状を悪くさせることがありますから、公的な場所での喫煙を制限している所が多いのです。

たばこと薬との併用で、思いがけない相互作用を生じることがあります。